

FIND ASIA MANAGEMENT CLUB

ファインドアジア経営者クラブ



特別
会員

2016 年 3 月号



Special members-only

Vo,1

■推奨環境■

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader を無料でダウンロードしてください。

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

■著作権について■

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権はファインドアジア経営者クラブ株式会社に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートのご利用は自己責任でお願いします。このレポートの利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

■ 目次 ■

■ 目次 ■	3 -
■ はじめに ■	4 -
■ 第 1 章 ■	5 -
～いよいよ困難になる非居住者の海外口座開設～	5 -
(1) シティバンクから衝撃的なメールが。。。	5 -
(2) では、どこで口座開設すればいいのか。。。	7 -
(3) ピンと来た方のためは。。。	9 -
■ おわりに ■	10 -

■はじめに■

ファインドアジア経営者クラブ一般会員の皆様、いつも当クラブをご愛顧くださりありがとうございます。

当レポートでは、日本やアジアの最新の話題を、当クラブ独自の切り口でまとめ会員の皆様に提供してまいります。なお、本レポートは一般会員様には一切公開していない、特別会員様限定の内容となっております。

情報鎖国を徹底的に行っている日本において、正しい情報を得るのは至難の業です。最も大切な情報は、決してメディアには流れてきません。ましてや、“タダ”で情報が手に入るインターネットを鵜呑みにするなど愚の骨頂です。

当クラブの会員様には、本レポートを通じ、正しい情報収集の方法について学んでいただければと考えております。

本レポートを熟読いただき、激動の世を切り拓く同志としての”共通言語”を増やしていきましょう。(レポートには本当にお伝えしたいことのごく一部しか記載しておりません。ご質問等ある方は、当クラブ役員までお気軽にお問い合わせくださいませ。)

特別会員の皆様限定の情報を掲載しておりますので、この情報を活用し本業を更に発展させてくださいませ。

■第1章■

～いよいよ困難になる非居住者の海外口座開設～

(1)シティバンクから衝撃的なメールが。。

特別会員の皆様は、日本国以外の国に銀行口座をお持ちだろうか？

昨今、その国の滞在ビザを保持していない外国人（非居住者という。）の銀行口座開設がとても難しくなっている。

そもそも、なぜ日本以外の国に銀行口座を持つ必要があるのか？

海外口座に口座を持つことで日本の預金者や投資家の可能性が大きく広がっている。これまで本邦の銀行や証券会社では固定性預金や株式投資など極めて伝統的なサービスしか受けられなかった日本の個人投資家や預金者が手軽に海外口座を持つことで、金利の高い外国通貨などの預金を手軽に利用したり、グローバルな投資を行うプライベートバンクのプロフェッショナルからの専門的なサービスを受けるなど、大きなメリットが期待されている。

今でこそ自由化された海外口座であるが、ここまでには長い道程があった。

1998 年 4 月に、時の橋本龍太郎政権が進めた金融ビッグバンのフロントランナーとして改正外為法（外国為替及び外国貿易管理法の一部を改正する法律）が施行され、海外口座の取引は完全自由化された。そもそも 1949 年に法律が施行された当時は、日本の脆弱な経済を背景に対外取引は厳しく制限する必要があり、その後も随分長い間変わらぬ状態が続いた。ようやく 1989 年 7 月に 5 百万円以内の取引が自由化されて、段階を経て自由化された経緯がある。国内では 1200 兆円（1998 年当時）の巨額の資金が殆ど銀行預金に滞留していた。低い円金利と変わり映えの無いサービスでは我慢の限界を超えており、自由化は起こるべくして起こった。

非居住者による口座の開設などについては、多くの国で積極的であるが、シンガポールでのプライベートバンク取引を利用する海外投資家は多い。物流と金融のハブ拠点を目指しているだけに抜群の税制やインフラ環境を用意している。何よりもカントリ格付が AAA(トリプル A)と安定性も際立っていることが大きい。

英語が話せない非居住者に対し、日本人スタッフ（もしくは日本語が話せるスタッフ）が口座開設対応をしてくれていたシティバンクシンガポールの担当 J さんより、

驚くべきメールが届いた。。。

なんと、これまで最低預入金額 US\$50,000（日本で約 600 万円）で開設できていた口座（シティバンキング）が、最低預入金額 US\$200,000(日本円でなんと約 2,400 万円)にあがったというのだ。。。

一見銀行からすると、新規の口座開設者がいるということは、預金高が増えることに直結するので喜ばしいことのように思える。

ではなぜ、日本人の口座開設のハードルを上げる必要があるのか。。。

CITI バンクシンガポールでは日本人以外でも今回の開設水準を上げるようであるが、スタッフにも突撃取材を試みたり、色々調べてみると次のようなことが考えられそう。

- (1) 例えば外為法が自由化された後、試しに口座開設などする顧客もいたが、一定レベル以上の海外口座に残高を増やさない顧客は口座の利用も中途半端にあって取引メリットも含めて上手く活用できていない。外国人に関しても背景事情は違うものの活用できていない状況は同じようだ。
- (2) 一方で日銀の異次元緩和などで国内の株式が復活の傾向を見せたため、一時期にも海外に関心が低くなっていたことなどあって、銀行側もある程度確り継続的な関係が作れる顧客との取引を望んでいる。

銀行の夫々の経営事情があるので最終的には計りきれない部分もあるが、今の経済の外部環境を考えると、益々選別的になっているようにも見える。即ち、関心が高くて色々な可能性を試す投資家には銀行も十分なケアがあるようだが、それ以外には効率が悪いので一旦間口を閉じる姿勢なのかもしれない。

即ち敷居が高くなっているということか。そうだとすると日本語で対応してほしい日本の預金者には、取引に至るまでナビゲーションも必要になってくるだろう。このところのマイナス金利導入、株安円高で行き場の無い預金者はどうなるのか。

ファインドアジア経営者クラブ会員限定レポート(特別会員)
Vol,1 2016 年 3 月号

新規口座開設申込みに関する お知らせ

Subject: 新規口座開設申込みに関する お知らせ
From: [REDACTED]@citi.com>
Date: 23/12/15, 2:29 PM
To: [REDACTED]@gmail.com>
CC: [REDACTED]@citi.com>

安田様

平素よりシティバンクシンガポール インターナショナルパーソナルバンクをご利用頂き誠に有難う御座います。

この度は、最低預入額の改定のご案内の為、本メールを送付させて頂いております。

弊行では、2016年1月1日より新規開設口座の最低預入額を200,000米ドル（相当額）に改定をさせて頂く事となりました。

改定に伴い、シティバンキング（最低預入額50,000米ドル相当額）の新規口座開設は、既に受付を終了させて頂いております。

	最低預入額 (改定前)	最低預入額 (改定後)
シティバンキング	50,000米ドル	取扱い中止
シティゴールド	150,000米ドル	200,000米ドル
シティバンクプライベートクライアント	1,000,000米ドル	1,000,000米ドル

急なご案内となり、ご不便をお掛けし誠に申し訳ございません。

私共もミーティングで改定を通知されたばかりであり、急ぎご連絡をさせて頂きました。

何卒よろしく御願い申し上げます。



シティバンク・インターナショナル・パーソナルバンク・シンガポール

(2)では、どこで口座開設すればいいのか。。。

海外で資産を構築するために、海外の銀行口座を持つことはとても重要である。

しかも、アジアで最高クラスに国債格付けの高いシンガポールの銀行に資産を保有できたとしたら、その価値は計り知れない。

日本人が海外で銀行口座を持つ際の障壁となるのが、①英語力の問題 ②就労ビザの問題 である。

多くの日本人が英語が話せず、就労ビザを持っていない。そのような 当クラブの会員に限り、シンガポール、台湾、香港、マレーシアなどでの口座開設サポートを行っている。

今回は、シンガポール三大銀行の一つである OCBC 銀行での口座開設が可能になった。三～四百万円の最低預入金額で、世界トップクラスの格付けを誇る銀行に個人口座を持てるのだ。(しかも英語が話せなくても)

■「ブルームバーグ」銀行ランキングでは世界一			閉じる X
順位	銀行名	国籍	
1	OCBC	シンガポール	
2	BOC Hong Kong	中国	
3	Canadian Imperial Bank of Commerce	カナダ	
4	Tronto Domion Bank	カナダ	
5	National Bank of Canada	カナダ	
6	Royal Bank of Canada	カナダ	
7	UOB	シンガポール	
8	DBS	シンガポール	
9	Hang Seng Bank	中国	
10	Svenska Handelsbanken	スウェーデン	
(出所)ブルームバーグ			

(3)すぐに行動したい会員様へ。。。。

こちらにお電話ください→03 5533 8631

その際、”2016 年 3 月の特別会員専用レポート”を見た、とお伝えの上、口座開設をしたい旨をお伝えくださいませ。

1. 口座開設相談 Skype コンサル(2016 年 3 月 10 日まで)先着 5 名
2. 口座開設ツアー(2016 年 4 月 20 日-22 日) 先着 5 名

■ おわりに ■

いかがでしたでしょうか？

ピンチをただ受け入れ窮地に追い込まれるのか、ピンチを予測しチャンスと捉え加速するのは、皆様次第です。

当経営者クラブでは、皆様の「悩み」を解決できるプラットフォームとして更に進化するため、皆様から「悩み」を随時募集しております。お気軽にご相談くださいませ。

今回の特別会員限定レポートでは、日本では決して報道されない情報と、それに対する解決策を提示させていただきました。

このような情報を生かし、ぜひ本業を更に発展させてください。

作者：安田哲

メールアドレス：famc@find-sg.com

運営サイト：<http://famc.find-sg.com/>

FIND ASIA MANAGEMENT CLUB

フ ァ イ ン ド ア ジ ア 経 営 者 ク ラ ブ

